挨拶

50th Anniversary
沖縄県消防学校

50周年に寄せて

沖縄県知事　玉城　デニー

沖縄県消防学校開校50周年にあたり、ごあいさつを申し上げます。

本校は、消防職員、消防団員及び消防関係者の教育訓練機関として、昭和49年３月に西原町にて開校しました。平成８年12月には、複雑・多様化する災害等に的確に対応する教育訓練を可能とするため、現在の中城村に移転し、開校から今年で満50年を迎えました。

その間、県下消防関係者の御尽力により、令和４年度末現在で消防職員13,612名、消防団員5,543名、自衛消防隊、女性防火クラブ等1,909名と多数の教育訓練を行い、優秀な消防人を養成してまいりました。消防学校がここまで発展を遂げてこられましたのも、歴代校長並びに関係職員の御尽力と市町村消防本部等の御協力の賜物であり、深く敬意と感謝を表します。

さて、近年では、大雨による土砂災害や地震などの自然災害がどこで起きてもおかしくない状況であり、沖縄県においても、頻発する台風の襲来等に加え、先だっては、「今後30年以内における南西諸島海溝周辺の地震発生の可能性に関する調査結果」が公表され、大きな地震の発生が想定されております。

また、令和元年10月には、沖縄の歴史と文化の象徴である「首里城」で火災が発生し、正殿、北殿及び南殿等が焼失したことは、県民にとって誠に衝撃的な出来事ではありましたが、県内消防本部及び消防団の懸命な消火活動により、幸いにも近隣住家等への延焼や人的被害に至ることはありませんでした。

このような自然災害や大規模火災等への対応に加え、近年増加する救急搬送への対処など、消防の任務は、現場の最前線における住民生活の安全・安心の確保であり、住民の皆様が消防によせる期待は極めて大きなものとなっています。また、沖縄県においては、島しょ県という地理的特性から、地域の初期消防力の強化が非常に重要となっています。

消防学校では、これらの多様なニーズに的確に対応するため、消防職員に対する専科教育の拡充や、消防団員に対する教育の充実等を図り、社会情勢の変化や技術の発展に即した消防教育を行ってまいりました。

関係者の皆様には、開校50周年の節目の年を迎え、これまで積み重ねられてきた歴史と伝統を踏まえつつ、安全・安心な島づくりを目指し、更なる消防教育訓練に御尽力されることを期待しております。

結びに、沖縄県の消防の御発展と関係各位の益々の御活躍を祈念し、ごあいさつといたします。

発刊のことば

50th Anniversary
沖縄県消防学校

消防学校開校50周年を迎えるにあたって

沖縄県消防学校　校長　大村　朝洋

沖縄県消防学校は、昭和49年３月15日に西原町で開校してから、令和６年３月15日をもって50年を迎えることになります。これもひとえに、これまで消防学校の運営に携われた歴代校長はじめ関係職員、そして県内消防本部及び外部講師の皆様方の多大なるご支援とご協力のおかげだと衷心より感謝申し上げます。そして、その節目として、記念誌を発刊することになりました。

本校は、開校以来、令和４年度末現在で21,064人の消防職員及び消防団員、そして消防防災関係者の教育訓練を行ってまいりました。特に、消防職員・消防団員にとっては原点回帰の場所であり、更なる成長をさせてくれる場所だと確信しております。

また、本記念誌を作成するにあたり、寄稿文や写真を提供いただきました皆様にはこの場をお借りし感謝申し上げます。寄稿文や写真により西原校舎時代から現在までの消防学校の変遷をわかりやすく目で見ることができ、開校50年に相応しい記念誌になったと思います。この記念誌を見て懐かしい当時に思いを馳せる諸先輩もいれば、現在の教育訓練が当たり前にできる環境に感謝する若い消防職員もいると思います。

そして、沖縄県内の消防職員・消防団員が、縁あって本校で出会い、所属も年齢も関係なく同期の絆を深め、「沖縄県消防一家」の一員として、沖縄県民や県内滞在者の生命、身体、財産を災害等から守るため一緒に活動することになるのです。

私も、縁あって東京消防庁で研修させていただき、その後今日まで、本校で教官、副校長、校長と通算13年間重責を担ってまいりました。この開校50年という節目に校長としているのも、教官に推薦していただいた当時の第12代屋良善康校長や教務課長をされていた後の第17代山内正校長のおかげであります。山内元校長からは、「10年後、20年後と将来にわたり、彼らが沖縄県を災害等から守れる消防人になるよう『仕向ける』のが教官の役割であり、消防人としてスタート地点にいる初任教育学生を指導し、その成長を見届けることができるのは『教官冥利に尽きる』ことだ。」と教えていただきました。私は、正に今それを実感しているところです。

本校は、「一　厳正な規律の保持　一　知識と技術の修得　一　体力と気力の錬成」の校訓の下、「訓練に終わりなし」の象徴の場として、今後も消防人の育成に教職員一丸となって取り組んでいく所存です。また、消防人の普遍的な基礎として「消防精神　思いやり（目配り、気配り、心配り）、愛護的精神（人、資器材）、和衷協同の精神、規律保持の精神、安全管理の精神」を今後の世代にもしっかり根付かせていきたいと考えています。

しかし、消防人の人材育成は、消防学校の教職員だけでは成り立ちません。県内消防本部の協力による教官や支援講師の派遣、そして県内医師や外部講師など多くの方々の協力が必要です。本校としては、更に60年、70年、と今後も沖縄県の消防人育成のため、社会情勢の変化や技術の発展に的確に対応できるように、そして現場が必要とする教育訓練計画や訓練環境を整え、充実した訓練が提供できるよう取り組んで参りますので、今後とも、関係各位の一層のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

祝辞

50th Anniversary
沖縄県消防学校

温故知新

～未来へとつなぐ沖縄県消防学校の訓え～

沖縄県消防長会　会長　照屋　雅浩

春色の候、このたび、沖縄県消防学校開校50周年という輝かしい節目の年を迎えられたことに心からお慶びを申し上げます。また、沖縄消防教育の殿堂として歩んできた貴校の来しかたを、記念誌に記すことは大変意義深く、関係者のご尽力に対し深く敬意を表します。

沖縄の消防は、戦後、米軍統治下という歴史の風雪に耐えながらも、一日千秋のおもいで本土並みの消防体制を希求し続けました。中でも「消防教育」の分野においては本土消防との格差が大きく、県内の消防関係者は、基幹施設である消防学校の設置を最も渇望していたものであったと思います。

そのような中、沖縄県消防学校は1974年（昭和49年）３月15日に誕生します。まさに旱天の慈雨のように歓喜に包まれたのも束の間、本土復帰後の課題であった救急隊員の養成のため、救急専科の入校式が同日に執り行われ、消防教育の遅れを取り戻すための教育訓練計画は、息つく間もなくキックオフされ、歴史の一歩が踏み出されました。

復帰前後の混沌とした時代から、本土並みの消防体制の確立を最大目標に置きながらも、組織力強化や予防行政の是正（建築許可の同意権や危険物規制の事務処理等）など喫緊の課題が山積し、消防学校に課せられた使命は、果てしなく大きかったものと思います。

沖縄県消防学校を牽引した初代校長の大城孝吉氏から、第21代となる現校長の大村朝洋氏まで、消防人育成のために受け継がれてきたその訓えと情熱は連綿と続き、学校関係者の皆様のご努力に対しまして心から感謝を申し上げる次第でございます。

私なりに回顧いたしますと、毎年開催されます沖縄県消防救助技術指導会も47回目を数えるに至り、消防学校は檜舞台であり救助隊員の聖地でありました。「訓練に終わりなし」を合言葉に訓練に明け暮れた日々を思い出します。また1996年（平成８年）12月には西原町から中城村へと新築移転し、プールや体育館を兼ね備え充実した学校施設へと生まれ変わりました。さらに2000年（平成12年）には九州・沖縄サミット消防特別警戒の進出拠点及び宿営地として利用され、全国の津々浦々から消防警戒応援部隊が集結しました。数十台の応援部隊の消防車両と数基の消防防災ヘリがグラウンドに駐機された光景はまさに圧巻であり、今でも記憶として鮮明に残っております。

さて、沖縄県消防学校は次の100年に向けて、その歴史をスタートさせました。激甚化する気象災害や切迫する巨大地震など、消防を取り巻く環境は新たなステージへと突入しています。それでも災害に屈することない人材を育てることこそが、減災への近道だと私たちは信じています。住民の安全安心と夢と希望に満ちた社会を目指し、貴校とともに人材育成に最大限努めていく所存でございます。

結びになりますが、沖縄県消防学校のますますのご発展とご健勝を心から祈念申し上げ、ご祝辞とさせて頂きます。

50周年記念誌の発刊を祝して

公益財団法人
沖縄県消防協会　会長　久高　清美

沖縄県消防学校「50周年記念誌」発行にあたり、心からお祝いを申し上げます。

沖縄県消防学校におかれましては、昭和49年の開校以来、半世紀にわたり県下の消防職員、消防団員、女性防火クラブ員、及び自衛消防隊員、その他防火協力団体への、県内唯一の消防教育機関として重責を担ってこられました。本県消防の発展に大きく寄与されましたことに対し、衷心より敬意を表し感謝申し上げます。開校以来、二万人余の卒業生を輩出し、それぞれの地域において尊い「身体・生命・財産」を守るべく、崇高な任務を果たすため懸命な活動をされております。

開校から今日まで沖縄県消防学校の教育訓練にご尽力された講師の先生方をはじめ、歴代の学校関係各位に対しまして、心から敬意を表する次第であります。そして私も卒業生の一人として記録されていることを誇りに思うと同時に、消防人として精進して参りたいと決意を新たにしております。

本土復帰から激動の時代を経て今日まで、沖縄県の消防人諸先輩方が苦難を乗り越え消防体制の充実強化を始め、本土並み消防へ前進することが出来たことは、消防学校の教官並びに本土消防人のご指導ご支援の賜物であり、深く感謝を申し上げます。

さて、近年の災害は気候変動などにより複雑多様化するとともに、災害が大規模化しており国内外を問わず相次いで甚大な被害をもたらしています。令和５年８月の台風６号襲来は、これまで経験したことのない長期間の停電や想定以上の被害に県民誰もが災害への「備え」の重要さを感じたことでしょう。県民から消防に寄せられた期待が大きかったと思います。近い将来南海トラフ地震の被害が予測されております。本県は島しょ県となっており大規模災害発生時の応援体制は時間を要する事から、当協会では今後発生が予測される大規模災害時において消防職員と消防団員の連携強化を図るための施策を消防学校と連携し推進していく所存です。近年では消防設備が充実されつつありますが、優れた設備を備えようと、それを扱う消防人の能力と魂がなければ立派な成果は期待できません。沖縄県消防学校開校50周年の節目に当たり、我々消防人は改めて先人達の苦難の歴史に学び、校訓「一　厳正な規律の保持」「一　知識と技術の修得」「一　体力と気力の錬成」を肝に銘じ行動する事に意義があると思います。沖縄県消防学校の良き伝統が、若く優秀な消防人によって受け継がれ、次世代においても消防学校が優秀な消防人の育成の場となっていくことを祈念するものであります。

結びに、沖縄県消防学校の今後ますますのご発展と、関係者皆様方のご多幸を祈念して、お祝いのことばといたします。

50th Anniversary
沖縄県消防学校